

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おうちだ（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 6日		R8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	R8年 1月 6日		R8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種協働による丁寧な支援を提供している。	保育士、看護師、理学療法士などの専門職がゆったりした環境の中で個々に応じた支援を提供する。 必要に応じて、実施可能な方は活動などを調整し特殊浴槽による入浴支援を行っている。家庭の状況に応じて、送迎も実施している。	子どもさんや保護者、学校、訪問看護、リハビリ先の医療機関とも連携し、より個々に適した支援を実施する。
2	社会資源を活用し、お子さんの希望を聞きながら社会体験活動を実施している。	小学生から高校生までの利用者の生活年齢を意識して、ご本人の希望を聞きながら社会体験活動を行っている。	ご本人の年齢、要望、経験などを丁寧に聞き取り、課外活動を継続実施したい。
3	事業所建物内において、幼児から成人までの幅広い年代において触れ合う機会を設けている。	児童発達を利用する幼児さん、放課後デイサービスを使用する岳豪さん、お互いに他児を意識し時間や環境を共有している。また同じ建物内で、生活介護、グループホームなどの事業も実施している為、高校を卒業した後の過ごし方や暮らしについても身近に見学することができる。	放課後デイサービス終了後、高校卒業後の進路や生活についても、本人や保護者と話をしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	重症児さんを主として受け入れる事業所、特に放課後等デイサービスの利用児さんが多い事業所として、職員を丁寧に育成していくことが課題である。	重症児のお子さんの場合は、個々の特性やケアに応じて丁寧に支援することが必要である。おうちだは、契約人数が多く一人の利用回数が少ない場合、月に支援できる回数も少ない。新人職員へ多くのお子さんの個性を丁寧に伝えながら役割を指導することに難しさがある。	ケース会議や研修を実施して、新人職員が支援以外の時間に学ぶことができる機会を多く作る。職務要領書に変更点を書き入れながら、新人職員が現状との違いに戸惑わないように配慮する。個々に応じたコミュニケーションを図り、人間関係を良好に保つ。
2	事業所のみで保護者同士が交流できる場や機会を設けることができていない。	ご利用児の年齢幅が広く（3歳から18歳）、保護者の年齢幅も広く興味関心、悩み、家庭状況が大きく異なる。的を絞った交流の場を設けることができていない。	他事業所と合同で、祭りなどの行事を行うことは出来ている。今後は茶話会などを開催し保護者が求める交流の場を把握していきたい。
3	重心のお子さんの知的な発達面、心の育ちなどを一般的な評価ツールを用いてアセスメントできると、より個々のお子さんの要望を把握した支援が提供できる。	重症児のお子さんの知的発達面、心の育ちを評価することに難しさがある。	インフォーマルな方法でアセスメントし、職員間で共有し保護者にも伝えながらお子さんの心の育ちを把握していきたい。